

## 百々橋（どどばし）

かつて京・堀川通寺之内界隈は百々氏という豪族が住んでいたそうです。この場所に在る「宝鏡寺」は百々御所とも呼ばれ室町幕府の政治が行われていたそうです。その境内の南側の通り（現：寺之内通り）を百々の辻と呼んでいました。小川（こかわ）という川が流れており百々橋という小さな橋がありました。「今昔物語」にはこの百々橋付近に青い着物を着た妖女が出るという記述があります。室町時代の応仁の乱では、この橋を挟んで（対峙）川の東側に細川勝之、西側に山名宗全の軍勢が数度にわたり激戦を交えた場所だそうです。ですからこの小さな百々橋と呼ばれる橋は戦国乱世（応仁の乱）の歴史の一コマが深く刻まれています。この百々橋は長さ約7,4m幅約4mくらいの木板であったのが、江戸時代の改修の際に石橋になりました。昭和40年（1965年）小川は下水道整備の際に全て暗渠下され、百々橋も解体されました。百々橋はその後、近くの室町小学校に保管されていました。その後、百々橋の橋脚を支える4基の礎石のうち1基を現地に遺構として遺し、1基は室町小学校で保存、残りの2基は他の橋材と一緒に京都市西京区の洛西ニュータウンにある竹林公園（昭和56年開園）に移されて復元されています。





堀川寺ノ内東界限

{百々橋保存場所：洛西ニュータウン竹林公園内}



